第 156 回「防災まちづくり談義の会」レポート

（防災塾・だるま・ホームページ： http://darumajin.sakura.ne.jp/ ）

平成 30 年 6 月

日　時：2018 年 6 月 29 日(木)　18:00-19:30　　場　所：神奈川大学　24 号館　310 号室

◆ 主　催：防災塾・だるま　　司　会：山田美智子　　記　録：紅林敏行

◆ 談義の会参加者： 会員 15 名　一般 7 名（含む講師、学生 4 名）　計 22 名　（敬称略）

栗原さん（講師）

左(講演会場の模様)　中(荏本塾長(挨拶))　右(山田さん(司会))

話題: 『災害派遣にかかる保健活動』～発災時の活動からみえてきたこと～

講師: 栗原　明日香氏　横浜市保健福祉局健康安全部　健康づくり担当係長（保健師）

2011年東日本大震災では福島県、2016年熊本地震では熊本県上益城郡嘉島町への災害派遣を体験。被災地の保健師の活動を支援するとともに避難所における被災者の健康相談や健康ﾁｪｯｸ、衛生対策などに取組む。被災地での保健活動を通して見えた課題等について、現場での写真をまじえながら解り易く講演。(2016/4/18～4/23の横浜市からの嘉島町派遣第一陣に参加。)

●『どの様な状態で避難所を開設したか』が重要！
嘉島町の指定避難所は混乱してｽﾀｰﾄ。水害対策は進んでいたが、**地震に関する防災計画は無かった。前震**で町民会館に避難所開設。**本震**で町民会館が被災。避難者が町民体育館に土足で逃げ込んで、そこが指定避難場所になった。**避難所台帳**が作成出来ず、**区画整理**なし、多数の高齢者が混在。**土足の状態の床**の上で避難者は寝起きし、**環境的に大変不衛生な状態**にあった。
『私設避難所』近くの公民館や施設や公園などに自主的に避難している方が多くいたが、その状況を町では把握できなかった。**ﾃﾝﾄ泊、車中泊**も多かった。

●『避難所の衛生上の問題』を順次解決。
・【**土足禁止大作戦**(左記写真①)】職員・自衛隊・消防士・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・子供達など総勢 50 人が参加して、**警察官立会いのもと**で半日以上をかけて床の清掃や消毒を実施し**土足厳禁**を実現。**区画整理**も行い、**避難者台帳**を作成。
・【ﾏﾆｭｱﾙ通り健康上の課題に順次対策実施】**うがい**や**手洗い、消毒薬**の使用などの周知・徹底。**食中毒注意等の啓発、ｺﾞﾐの分別管理**等も展開(左記写真②)。
「次に何が起こるのか、何を予防しなくてはならないのかを予測して対応していく」事は、とても大切。

●**小中高校生、学習が遅れることも大きな課題**。夜も勉強出来る場所の確保等。

●**ﾏｽｺﾐ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱへの対応**も難しい課題。勝手に住民の中に入ってくる腕章を付けたﾏｽｺﾐのｺﾝﾄﾛｰﾙが難しい。炊き出し等の応援してくれたﾎﾞﾗﾝﾃｨｱへの対応(食品安全管理等)も難しい。

●地方と違い、都市では**皆が集まって過ごすことが苦**になる。**寝起きを一緒にするだけでもｽﾄﾚｽ**。「隣にいる人はだれ？」。また、都市では日常生活の中での**各戸と行政との関わりが薄い**。

●**「正しい情報をどの様にだれからだれに伝えるのか？」**が難しい。避難所のﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ・定期放送などの伝達情報手段を持つことが重要。最近、SNS でﾃﾞﾏが拡散する事を聞くが、避難者同士等、SNS で情報交換して日用品を融通し合う、また校庭に SOS と表記して水等を要望していることが SNS で伝わって近隣の避難所から直接届けることがあった。福島では様々な場所から避難者が集まっていたが、定期的な会議が町単位で別々に実施され、行政の情報が班長さんから住民に周知されていた。

《まとめ》

●ひとりひとり、近隣の人の顔が分り、「挨拶」できる関係づくりをしましょう！

●健診を受けるなどをして、健康状態を把握しておきましょう！3 日間過ごせる薬を持参することも重要。

●最後はやはり自治会町内会が頼り！自治会町内会は地域の中で、認識されている組織。自治会町内会を通じて行政と連繋し、避難時のさまざまな問題を解決していく。

●次回（第 157 回）案内

・日時:2018 年 7 月 27 日（金）18 時～19 時 30 分　・会場：神奈川大学 24 号館 310 号室

・話題:『大規模地震発生時！』～被災地における防犯対策～

・講師:中島敦志氏　神奈川県警察本部　生活安全部生活安全総務課 犯罪抑止対策室長